



第3の分割・民営化攻撃へ闘いの方針を確立

動労千葉は6月23日、第48回臨時大会を開催した。定期委員会を臨時大会に格上げし、職場で吹き荒れる第3の分割・民営化攻撃に立ち向かっていく新たな闘いの方針を打ち立てるものとなった。「運転士・車掌廃止」攻撃粉碎、第3の分割・民営化攻撃「全面注化・転籍強制阻止、改憲阻止に向けた闘いの方針を確立した。

6月19日には、動労千葉乗務員分科会定期委員会が開催され、「シヨブローテーション」運転士・車掌廃止」攻撃粉碎に向けて闘いぬく方針を決定するとともに新会長に北嶋琢磨本部

副委員長を選出し、乗務員分科会の次代を担う新たな体制を確立した。これに合わせて動労千葉・動労水戸・動労総連合の3者で「乗務員勤務制度改悪阻止！闘争本部」を立ち上げた。JR東日本で始まった攻撃は、安全崩壊、過労死と重大事故、そして技術継承の崩壊と無責任体制を生み出すものとして強く警鐘を鳴らし、「鉄道の安全とJRで働く全労働者の権利を守る闘い」鉄道を働く労働者の権利・未来・運転保安のために声をあげよう。ともに闘おう」とする闘争アピールを発した。

国鉄1047名解雇撤回闘争をめぐり千葉県労働委員会は5月14日、解雇撤回・団体交渉開催の申し立てを却下する決定を行いました。6月21日の行政訴訟（千葉地裁）では、弁護団を先頭に千葉

6・9集会は、JR職場における反転攻勢を告げるものとなりました。動労千葉の関道利副委員長は、JR千葉鉄道サービ

「運動の火を」を口実に乗務員の誇りを踏みにじり、JRで働くすべての労働者の権利を奪う攻撃です。反転攻勢の開始です。動労千葉の伝統でもある反合理化・運転保安闘争が真価を発揮するときにです。動労水戸は、常磐線全線開通と東海第二原発稼働を阻むための9・22集会への結果を訴えました。常磐線の全線開通は、今後数十年にわたって高濃度放射能の中で列車運行と車両検査業務を必要とし、労働者の被ばくを強制するものです。もちろん、これは住民・乗客にとっても重大な問題です。また重圧

(表面からの続き) し、どう確定するか。確定段階まで中労委を待たせるのか。あるいは途中で「中労委と裁判は関係ない。こちらはこちらでやる」と出てくるか。そのせめぎあいが出てきた。そういう二正面作戦で現在の状況が進展している。こちらとしては、あくまで県労委の忌避申し立て却下決定取り消し訴訟が終了するまで県労委は審理を中止せよという筋を立てようと思う。

人も出た。それでも闘争を続けたい。やせ我慢をやってきたけど、それをやり切った今日までつぶされずに自信を持ってやってこられた。関西生コン支部も苦しんでいる。組合員も踏み絵を迫られる局面かもしれない。弾圧粉砕の大きな集会を設定して東京でも何かできないか。そういうものを積み重ねながら11月集会に向かいたい。

頼を勝ちとることが重要だ。伊藤寛(日本近代史研究者) 地方自治とか公共性をどう守るのかということと職場を守るということを重ねる。JR東の乗務員制度の改悪問題は、有用労働の職場における社会的意味と深く結びついている。教育や医療で奪われようとしているものと自分の労働を守るといふこととの関係をきちんと広く議論したほうがいい。

自分たちの労働の有用性、どういう社会的意味を持っているかについて考えないといけないのではない。これは動労千葉でやっていることですから他分野でもきちんと考えたほうがいい。花輪不二男(世田谷地区労働組合協議会顧問) 広島からの闘いは非常に有効な反撃だと思います。地域からも支援をしていくことは重要だと思います。関西生コン支部の弾圧との闘いは、東京でも鈴コン支部を関

東生コンに成長させたい。鈴コン支部は、連休中の手当を勝ち取ったり、親睦会を巻き込んで職場闘争やったり面白い取り組みになっている。金元重(韓国労働運動史研究者) 関西生コン支部は闘う労働組合の代表格であり、11月集会の共催団体として20年間一緒にやってきた仲間です。弾圧にどうしたらいいのかと危機感を持つ。国鉄分割・民営化反対闘争と比べても関西生コン支部の弾圧への支援はこれだけかと。私たちも11月労働者集会で、キャンペーンで何かをやらなければならないと強く思う。

僕は韓国・民主労総の闘いを勉強し労働学校でも「韓国ではこういう弾圧がある。日本ではありえない。いかに韓国がひどいのか」と言ってきたけれどいま韓国ではそういうことをさせない闘争体制がある。それは3労組で20年間の共同闘争をやってきた義理でもあるし使命でもあると思います。

国鉄闘争全国運動の呼びかけにより6月9日、上野公園野外ステージで国鉄集会を開催しました。「国鉄闘争の火を消すな！」を合い言葉に旗揚げした2010年6月の最初の全国集会から10回目となる集会に1430人が集まりました。1047名解雇撤回闘争は千葉県労働委員会の不当な却下で重大局面を迎えています。国鉄闘争は今ひとつの奮闘が必要で、さらには関西生コン支部への未曽有の大弾圧、JRでは国鉄分割・民営化以上の歴史転換的な攻撃が始まっています。

また動労千葉津田沼支部の相馬正利支部長による「私たち運転士は毎日、何千、何万という命を目的の地まで運ぶ重要な仕事を担っている。運転士、車掌は経験がものを言う仕事だ。その否定は鉄道業務の否定と同じ。私の闘う姿を示す最後のチャンスだと思つて3月ダイヤ改定ストライキに立ち向かうことができるならば、資本の危機と激しい攻撃を、新たな労働運動の原動力に転ずることができるとは思いません。

10回を迎えた全国運動6・9全国集会

原点に立ち戻り

打ち破って開始された「広島教職員100人声明」を全国の方で支持し、防衛し、拡大する闘いは決定的に重要でです。

私たちは、国鉄・JR労働運動と関西生コン支部の解体を通して日本の労働者に屈服を迫る激しい攻撃に直面しています。これに立ち向かって労働運動の新たな生命力を生み出すのか、それとも新自由主義の破綻もたらす社会の崩壊や改憲・戦争の道に屈するのか。重大な岐路に立っています。

また動労千葉津田沼支部の相馬正利支部長による「私たち運転士は毎日、何千、何万という命を目的の地まで運ぶ重要な仕事を担っている。運転士、車掌は経験がものを言う仕事だ。その否定は鉄道業務の否定と同じ。私の闘う姿を示す最後のチャンスだと思つて3月ダイヤ改定ストライキに立ち向かうことができるならば、資本の危機と激しい攻撃を、新たな労働運動の原動力に転ずることができるとは思いません。

6・9集会には、「国鉄闘争の火を消すな」の旗の下、関西生コン支部・港合同・動労千葉の3労組を先頭に数多くの労働組合、あるいは自治体や教労、全通など各産別において苦闘して旗を守ってきた仲間が結集し始めた。動労千葉の分割・民営化反対ストライキや国鉄1047名解雇撤回闘争は、新自由主義攻撃に立ち向かう日本労働運動の進路を指し示してきました。いま一度、同じ気持ちで闘い

国鉄闘争を結集軸に関生支部弾圧粉砕・JR決戦を闘い抜き11・3日比谷野音へ

また動労千葉津田沼支部の相馬正利支部長による「私たち運転士は毎日、何千、何万という命を目的の地まで運ぶ重要な仕事を担っている。運転士、車掌は経験がものを言う仕事だ。その否定は鉄道業務の否定と同じ。私の闘う姿を示す最後のチャンスだと思つて3月ダイヤ改定ストライキに立ち向かうことができるならば、資本の危機と激しい攻撃を、新たな労働運動の原動力に転ずることができるとは思いません。